

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)8334
担当部課名	環境事業部	ごみ減量推進	課	ごみ減量
事務事業名	粗大ごみ受入施設		事業コード	21220

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	人と自然にやさしい地域社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第2節	リサイクル型社会の構築	13
施策名	第1施策	リサイクルシステムの構築とごみの減量化・資源化の推進	年度

2 実施根拠及び関連法令等

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 相模原市廃棄物の処理及び清掃に関する条例
--

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
粗大ごみ排出量の増加に伴う清掃工場の混雑解消や一般市民の安全確保、家電リサイクル法の施行に伴い生じる自治体の経費の負担増を、保管場所を確保し集中運搬することにより抑え、さらにはリサイクル品の選別機能を持たせることにより、総合的にごみの減量化と効率化を図る。なお、市内2か所に設置することにより市民の利便性も図る。		一般世帯	
		対象数	24万世帯
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
平成13年4月16日供用開始 持込み実績 北部粗大ごみ受入施設 持込み件数 30,584件 持込み量 1,447t 処理手数料 13,931,200円 南部粗大ごみ受入施設 持込み件数 23,318件 持込み量 1,086t 処理手数料 11,345,680円		ごみ・し尿収集体制の整備 (5) 個別計画の概要 計画名 計画年次 年度～ 年度	

4 評価指標

指標名	粗大ごみの直接持ち込み率	南受入施設利用率
指標式	$\frac{\text{直接持ち込み量(t)} / \text{粗大ごみ全体量(t)} \times 100$	$\frac{\text{南部粗大ごみ受入施設搬入件数} / \text{全体搬入件数} \times 100$
指標設定の意図	粗大ごみを市民が直接受入施設に持ち込むことによる回収費用の削減効果及び需要を見る。	北清掃工場のみでの受入を南部での搬入を可能にしたことにより、市民の利用率により利便性の向上を見る。

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標	35.7	34.1	a 43.6	b 40.0	50.0
指標	0.0	0.0	c 39.5	d 40.0	50.0
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	0	112,099	113,666	120,085
	人員・時間数	0.0	(14人)	(14人)	(10人)
	人件費	0	68,920	68,920	59,720
	その他経費	0	0		
	合計	0	181,019	182,586	179,805
特定財源					

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 103.9%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%>)		
$\frac{a}{b}$	$\frac{43.6}{40.0} \times 100 = 109.0\%$	$\frac{c}{d}$	$\frac{39.5}{40.0} \times 100 = 98.8\%$
		$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$
理由:	施設開所初年度であるにもかかわらず、持ち込み分が10ポイント近く増加したことは、市民のニーズに適應していると考えられ、回収費用の削減にもつながる。また、南部の利用率がほぼ目標を達成しているところから、市民の利便性は格段に向上していると考えられる。		

(2)必要性…時代変化に適應した事業内容か			
評価 B ▼	A:適應している	理由:	事業系と一般家庭から出るごみの持ち込み方法を分離し、一般市民の安全を図り、ごみに対する意識を向上させる目的を果たすことができるが、安易に粗大ごみを持ち込める結果となるため、一部課題が残る。
	B:一部適應していない		
	C:適應していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A:妥当である	理由:	事業系の車両と区別すること及び、小規模の施設で受け入れることにより、持ち込み時間の短縮を図れるなどの効率化が認められるが、清掃工場へ運搬する手間と費用が相当量必要となり、経済性に問題が残る。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A:代替の可能性ない	理由:	運営面での委託化の可能性は残されているが、事業の内容を考えると実現の可能性は低い。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A:満足できる	理由:	事業系車両に混ざり長大なコースを走行することなく、短時間で安全に搬入できること及び、南部地区にも持ち込み施設が開所したことによる利便性の向上により満足度は高い。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 B ▼	A:有効である	理由:	ごみの減量化やリサイクルを考えると、持ち込みのし易さは逆行している面もあるが、市民の安全と膨大なごみの山を目のあたりにすることによるごみに対する意識を考えさせる意味及び家電4品目の一括処理では有効である。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	説明:
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明: 粗大ごみの搬出方法の見直し。

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	単独の受入施設を整備している実施自治体はほとんどないため比較不可能。
今後の進め方		説明	容易に持ち込めることにより粗大ごみが増加する可能性があるという課題は残るが、清掃工場の混雑解消、一般市民の搬入時の安全性の確保、今後拡大される見込がある家電リサイクル法への対応、リサイクル品の確保で効率的な確保及び増量に、市民の利便性を考慮すると、開所の目的は十分に果たしており、当該事業を継続する必要性は充分であり、廃止することによるリスクは計り知れない。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--